

## 修復記録 Restoration Record

### [油彩画]

シャルル・コッテ  
《ヴェネツィア》  
油彩、カルトン(厚さ4mm)  
615×880mm  
P.1959-0053

#### 保存状態:

素地のカルトンは四隅において突きつぶれの繰り返しで、欠損ならびにほぐれが認められる。画面全体は薄描きでスケッチ様に描かれ、画面中央下辺りに長さ7~8cm、幅3cmばかりのへこみがあり、その上から描いている。画面表面の汚損、ニスの変色が認められる。下辺中央に釘で突いたようなピンホールがある。

#### 修復処置:

1. 調査
2. 絵具層固定
3. 表面洗浄
4. ニス除去
5. カルトン素地の補強
6. 充填塑形
7. 補彩
8. 保護ニス

アレクサンドロ・ベドリ・マツォーラ  
《ウェヌスとアモル》

油彩、カンヴァス  
1,040×605mm  
P.1962-0003  
(2007年1月~5月までパルマ展出品のため、修復中の展示)

#### 保存状態:

過去に調査のためカンヴァスは張り枠より取り外された状態にあった。カンヴァス素地は向かって左辺にオリジナルの残りが確認されるが、右辺、下辺、上辺において欠損が甚だしく、オリジナル絵画層に至る欠損が認められ、とくに下辺は不規則に10~35mm幅に失われている。古い裏打ち布は経年劣化と裂けによって弱体化している。画面はニスの変色ならびに表面汚損が甚だしい。過去の修復部の補彩は変色している。画面の重要な人物部分も横方向におられたような欠損部が多く認められる。

#### 修復処置:

1. 調査
2. 表面洗浄
3. ニス除去
4. 絵具層固定
5. カンヴァス解れ繕い
6. 古い裏打ちの除去

7. 素地欠損部切り詰め
  8. 裏打ち(和紙のインターレイヤー)
  9. 充填塑形
  10. 補彩
  11. ニス引き
- (処置:河口公男・岡崎純生)

### [ブロンズ彫刻]

レオナルド・ビストルフィ  
《死の花嫁たち》  
2,710×1,000mm  
S.2001-0004

#### 修復処置:

1. 調査、撮影
  2. 洗浄
- 当該作品は中長期的処置が望まれる作品で、修復処置から展示方法に至るまで計画によって、すべての処置作業を行なう。

以下の彫刻作品は、2006年度より引き続き行なっている屋内彫刻の免震化および台座交換の一環として、簡易免震すべり板を装着すると同時に、審美性向上のための台座交換を伴う一連の計画に従った処置を行なった作品である。

#### 防災対策:

1. 彫刻の足下に固定金物を装着
2. 新しい石台座の製作
3. 簡易すべり板の装着

#### 保存処置:

1. 付着物の除去
2. 表面クリーニング
3. 錆の除去
4. パティナ補彩
5. ワックス保護

#### 処置作品:

- オーギュスト・ロダン
1. 《ヴィクトル・ユゴー》 S.1966-0003
  2. 《ラッセル夫人の胸像》 S.1959-0050
  3. 《鼻のつぶれた男》 S.1959-0027
- 上記3点の共通使用台座、すべり板付き1基  
1,180×300×300mm

《エスクレピオス》 S.1959-0017  
930×350×350mm

《瞑想》 S.1959-0033  
380×850×850mm

《青銅時代》 S.1959-0002  
330×700×700mm

アリスティード・マイヨール  
《イル・ド・フランス》 S.1963-0002  
280×700×600mm

《夜》 S.1987-0001  
56×840×1,330mm(すべり板は台座石に直貼り)

《「調和」のための習作》 S.1963-0005  
280×600×600mm

《ヴィーナスのトルソ》 S.1963-0003  
580×600×600mm

《両腕をあげた浴女(大)》 S.1963-0004  
280×700×600mm

エミール=アントワーン・ブールデル  
《わが子を捧げる聖母》 S.1959-0059  
1,180×300×300mm

《ヴェールの踊り》 S.1990-0003  
980×400×500mm

《瀕死のケンタウロス》 S.1959-0056  
1,000×300×500mm

《首のあるアポロンの頭部》 S.1969-0001  
1,400×350×350mm

《パッカント》 S.1959-0055  
1,080×350×450mm

《横たわるセレネ》 S.1959-0058  
980×400×600mm

《果実》 S.1991-0001  
1,080×300×300mm

### [大理石彫刻]

石作品については追処置を要するため、台座とすべり板の用意のみ行なった。

オーギュスト・ロダン  
《洗礼者ヨハネの首》  
750×450×450mm  
S.1959-0051

アントワーン・コワズヴォ  
《ド・ヴィルヌーヴ・ダッシー夫人の胸像肖像》  
円柱:インド蛇紋 907×φ340mm  
基台:カラビヤンコ 193×660×660mm  
S.2000-0001

(処置:河口公男)

[貸出処置]

エドヴァルド・ムンク

《雪の中の労働者たち》(兵庫県立美術館へ貸出)

油彩、カンヴァス  
2,235×1,260 mm

1. カンヴァスの振動止め処置

ジャン=オレ・フラゴナール

《丘を下る羊の群》(巡回展:姫路市立美術館、松本市美術館へ貸出)

油彩、カンヴァス  
520×730 mm  
P.2000-0001

1. 裏板保護付け
2. 額装改良
3. 吊り金物交換

モーリス・ドニ

《若い母》(巡回展:姫路市立美術館、松本市美術館へ貸出)

油彩、カンヴァス  
1,600×980 mm  
P.1959-0073

1. 裏板保護付け
2. 額装改良
3. レリーフの補修

ジョゼフ・ヴェルネ

《夏の夕べ、イタリア風景》(巡回展:姫路市立美術館、松本市美術館へ貸出)

油彩、カンヴァス  
890×1,330 mm  
P.1988-0002

1. 額縁表面洗浄
2. 補彩除去
3. 構造補強
4. 欠損部充填塑形
5. 補彩
6. 裏板保護付け
7. 吊り金物交換

(処置:河川公男・岡崎純生)

[額縁修復処置]

金縁額

ボニファーチョ・ヴェロネーゼ作品  
1,440×1,825 mm

修復処置:

1. 調査
2. 表面洗浄
3. 補彩除去
4. 構造補強
5. 木彫欠損部の補完
6. 充填
7. 金地補彩
8. 裏板保護付け

(処置:河川公男・岡崎純生)